

大動脈外来を開設いたします



大動脈瘤や大動脈解離など大動脈疾患を主に扱います。大動脈は体の中で最も太い血管で、この大動脈に加齢や動脈硬化が原因で、こぶ状の膨らみが出来るのが大動脈瘤です。

大動脈瘤を有する大動脈は内側にコレステロールのかたまりがこびり付いた「粥状（じゅくじょう）硬化」や大動脈の壁が石のように硬くなる「石灰化」などと呼ばれる変性を伴っていることが多く、いわば動脈硬化の「なれの果て」とも言えます。また、大動脈瘤患者さんの約3割では、心臓を栄養する冠動脈に狭窄や

閉塞を伴うことがあり、カテーテル治療や冠動脈バイパスが必要となることもあります。大動脈瘤は自覚症状に乏しく破裂して初めて胸痛や腹痛といった症状が出現します。過去にCTや超音波検査で指摘され、経過観察を指示されている方に限らず、動脈硬化が強く大動脈疾患が心配な方など、心当たりのある方はぜひ外来を受診してください。

担当は毎週火曜日に総合診療外来で診察されています。

東邦大学大橋病院

心臓血管外科臨床教授 志村 信一郎

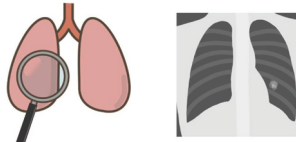
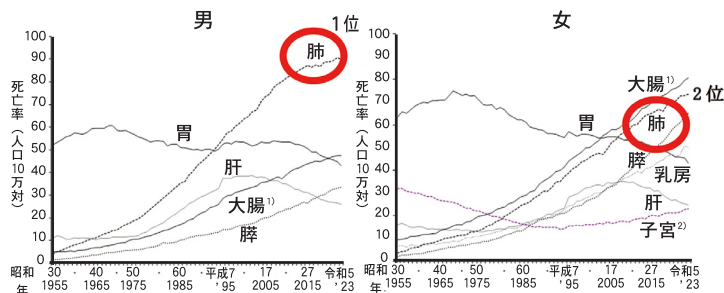
肺がん検診について

とうめいニュースをご覧の皆様、こんにちは。呼吸器科の三浦です。7月から毎週水曜日の呼吸器外来を担当させて頂いております。

今回は肺がん検診についてご説明致します。はじめに、肺がんは気管支や肺胞の細胞が何らかの原因でがん化したものです。令和5年の人口動態統計によると、腫瘍（がん）の部位別に見た死亡率で男性1位・女性2位が肺がんとなっております（図）。早期は症状がないため、発見が遅くなる場合も多く、進行し症状が出現してからは根治が難しいがんです。そのため、早期発見および早期治療が課題となっております。

現在日本では、肺がんを早期発見するために、40歳以上の方を対象に肺がん検診を実施しております。神奈川県で肺がん検診受診率は近年増加傾向にあり、令和4年の国民生活基礎調査では40-69歳において50%に達しております。厚木市でも多くの施設でがん検診を行っておりますので、受診票が届き次第お気軽にご連絡ください。

悪性新生物〈腫瘍〉の主な部位別に見た死亡率の年次推移



※国立ガンセンター がん情報サービス
全国がん検診実施状況データブック

また、がん検診を受診された方は結果をご確認いただいておりますでしょうか？厚木市肺がん検診では1.6%の方が要精密検査となっておりますが、その後の精密検査を受診された方はわずか56%です（全国では83.4%）※。要精密検査の方の2-3%に肺がんが隠れている可能性がありますので、いま一度結果の確認をお願い申し上げます。

皆様の健康の一助となれますよう努力してまいりますので、いつでもご相談ください。呼吸器科 三浦 隼



とうめい厚木クリニック

〒243-0034厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950

